

掲載内容

商品情報

- ・sCMOS カメラ Zyla のデモ機をご用意いたしました
- ・Photometrics 社製 EM-CCD カメラ“Evolve-DELTA”がリリースされました
- ・Andor 社製カメラの価格改定のお知らせ
- ・MVDOC に IMA(Integrated Morphometry Analysis)機能が標準装備になります
- ・MVDOC+キャンペーンのお知らせ

技術情報

- ・浜松ホトニクス社製 sCMOS カメラ“ORCA Flash4.0”を MetaMorph でご使用いただく際の注意点につきまして

Journal の紹介

- ・ScanSlide での座標登録の対角 2 点登録を上下左右の 4 点登録に変更する Journal

商品情報

・sCMOS カメラ Zyla のデモ機をご用意いたしました

Andor社製sCMOSカメラ Zyla DG-152X-C1E-FIのデモ機をご用意いたしました。

小型・高感度・低ノイズ・広視野・高速読出すべてを兼ね備えた次世代型sCMOS カメラです。

MetaMorph/MetaFluor/MVDOC ソフトウェアとの相性も良く蛍光画像取得をはじめとし、短時間でより多くの情報取得が必要となるハイコンテツ・スクリーニング用センサとしても最適なカメラです。

デモ機のご用命は当社担当までご連絡ください。



・Photometrics 社製 EM-CCD カメラ“Evolve-DELTA”がリリースされました

Photometrics社よりEM-CCDカメラ“Evolve-”に新グレード“Evolve-DELTA”がリリースされました。

従来のevolve-に比べ、フレーム転送速度が20MHz、フルサイズ(512x512)のイメージサイズで62.5枚/秒の速度で撮影が可能となっています。

撮像素子は従来のevolve-と同じ512x512(画素サイズ16um)チップを使用しており、これまでと同じく高感度、低ノイズ性をキープしたまま、転送速度を大幅に向上しておりますので、高速のTIRFMタイムラプス等のアプリケーションに適しています。

また、現在Evolve-:512カメラをご使用中のユーザー様には有償にてEvolve-DELTAへのアップグレードも対応させていただく予定です(金額は2012年6月現在未定)

MetaMorphでのサポートは現在開発進行中です。サポート完了次第、改めてご案内いたします



・Andor社製カメラの価格改定のお知らせ

Andor社製カメラの価格が6月より一部改訂されました。変更は下記のとおりです(全て税抜)

- ・DU-897U-CS0-#BV ¥6,000,000 → **¥5,800,000**
- ・Neo sCMOS DC-152Q-C00-FI ¥3,000,000円 → **¥2,300,000円**
- ・Zyla 3Tapモデル DG-152V-C1E-FI R&G シャッター,30fps ¥1,480,000 → **¥1,580,000**
- ・Zyla 10Tapモデル DG-152X-C1E-FI R&G シャッター,100fps, **¥1,980,000**

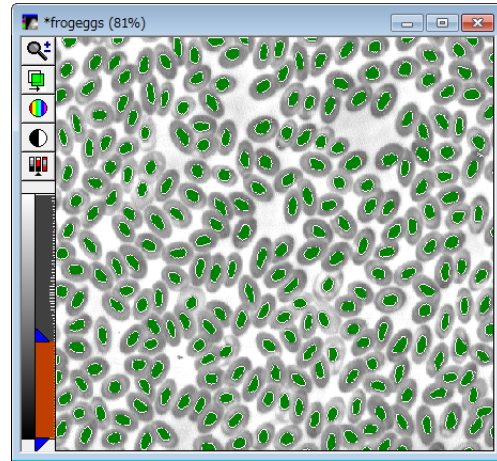
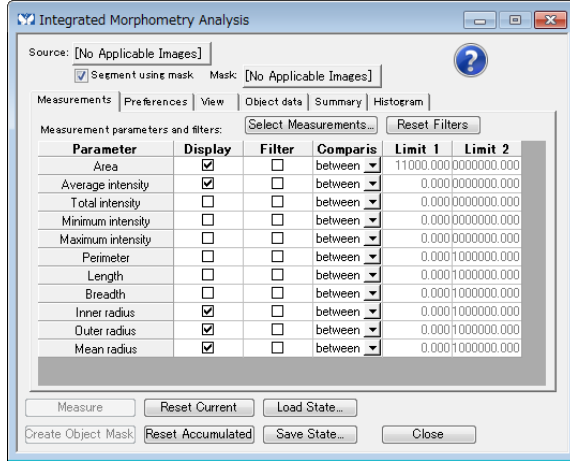
特にNeo sCMOSは非常にお求めやすい価格になりました。

インターラインCCDの更新をご検討のユーザー様には、是非この御機会をご利用ください

・MVDOCにIMA(Integrated Morphometry Analysis)機能が標準装備になります

低コストでありながら、各種カメラドライバ及びタイムラプス機能、解析にはRegion Measurements機能が実装され、ご好評いただいているMVDOCソフトウェアですが、今回、新規ご購入のライセンスに非常に強力な解析ツールとしてMetaMorphに実装されているIMA(Integrated Morphometry Analysis)機能が標準装備されるようになりました。

さらに解析面で強化され、かつ安価でMetaMorphへのUpgradeも可能なMVDOCがより便利になりました

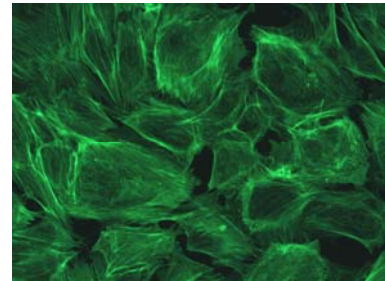
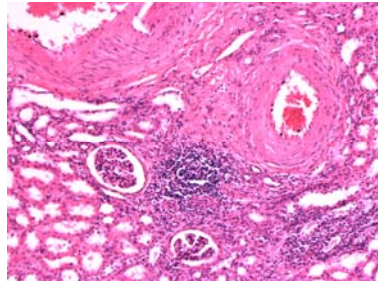


・MVDOC+キャンペーンのお知らせ

上記で紹介させていただきましたMVDOCに、コンパクトなノートPC、USB2接続のカメラをセットにしたMVDOC+キャンペーンを実施いたします。

カメラはソニー社製インターラインCCDチップを用い、画素数1296x964、特徴的なのは画素サイズが3.75umの為、空間解像度の高い画像を得ることが可能です。

カメラはモノクロとカラーの2機種をご用意。比較的明るい蛍光や病理診断などのカラー画像の撮影に適しております。



日本語化されたGUIで誰でも簡単に撮影できるMVDOCにMicrosoft Officeをインストール済みのノートPCを、弊社ですべてセットアップ後出荷させていただきますので、PCにカメラを接続するだけで納品直後から使用可能です。

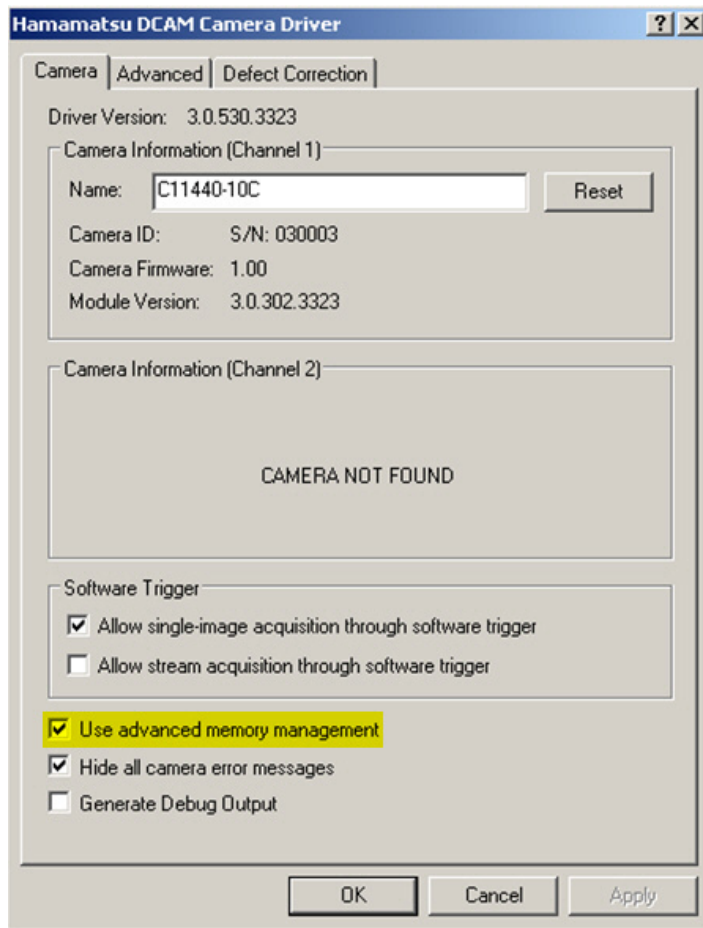
価格は定価550,000円(税抜)となります。
詳細は当社担当までご連絡ください。

技術情報

・浜松ホトニクス社製 sCMOS カメラ“ORCA Flash4.0”を MetaMorph でご使用いただく際の注意点
につきまして

浜松ホトニクス社製 sCMOS カメラ“ORCA Flash4.0”ですが、MetaMorph で使用する際、Administrator にてカメラの設定を行う際、下図のように“Use advanced memory management”にチェックを入れるようにしてください。(デフォルトではチェックは入っておりません)

この項目にチェックが入っていないと、電動フィルタホイールを使ったマルチカラータイムラプスを行った際、フィルタの切替に時間がかかってしまう問題が起こりますので、ご注意ください

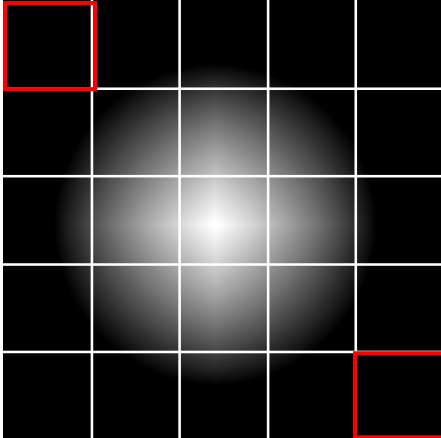


また、ORCA Flash4.0 のインターフェイスカードは PCIe x16 バスの対応となっております。
x8、x4 バスでも物理的に装着は可能ですが、正常な動作ができませんので、特にユーザー様のご用意された PC へのインストール時にはご注意ください

Journal の紹介

・ScanSlide での座標登録を対角 2 点登録を上下左右の 4 点登録に変更する Journal

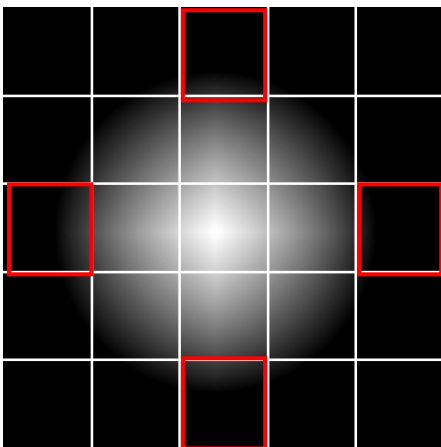
MetaMorph のオプション機能としてご好評をいただいている ScanSlide 機能ですが、下図のような画像を撮影する場合お困りになったことはございませんでしょうか？



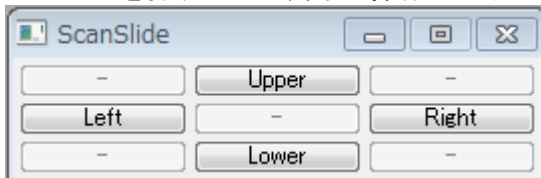
上記のサンプルは 5x5 でスキャンすれば全エリアを撮影できますが、Scan Slide では Upper left(左上)と Lower right(右下)の 2 点を登録する必要があります。

上図の場合、撮影対象の全景を撮影する場合、赤枠で囲っている左上及び右下は標本が写るエリアが存在しないため、登録時にどこまで寄せて登録する必要があるかどうかが困難となります。

このような画像の場合、対角ではなく、上下左右の限界点で登録すると容易になります



今回作成した Journal は ScanSlide で撮影エリアを登録する際、上下左右の限界点をそれぞれ登録することで、登録 4 点をつないだ矩形エリアを撮影で出来る Journal です。登録には下図のツールバーより、ステージを対象ポイントの移動した後、それぞれのポイントのボタンを押すだけの簡単な操作となります



以上